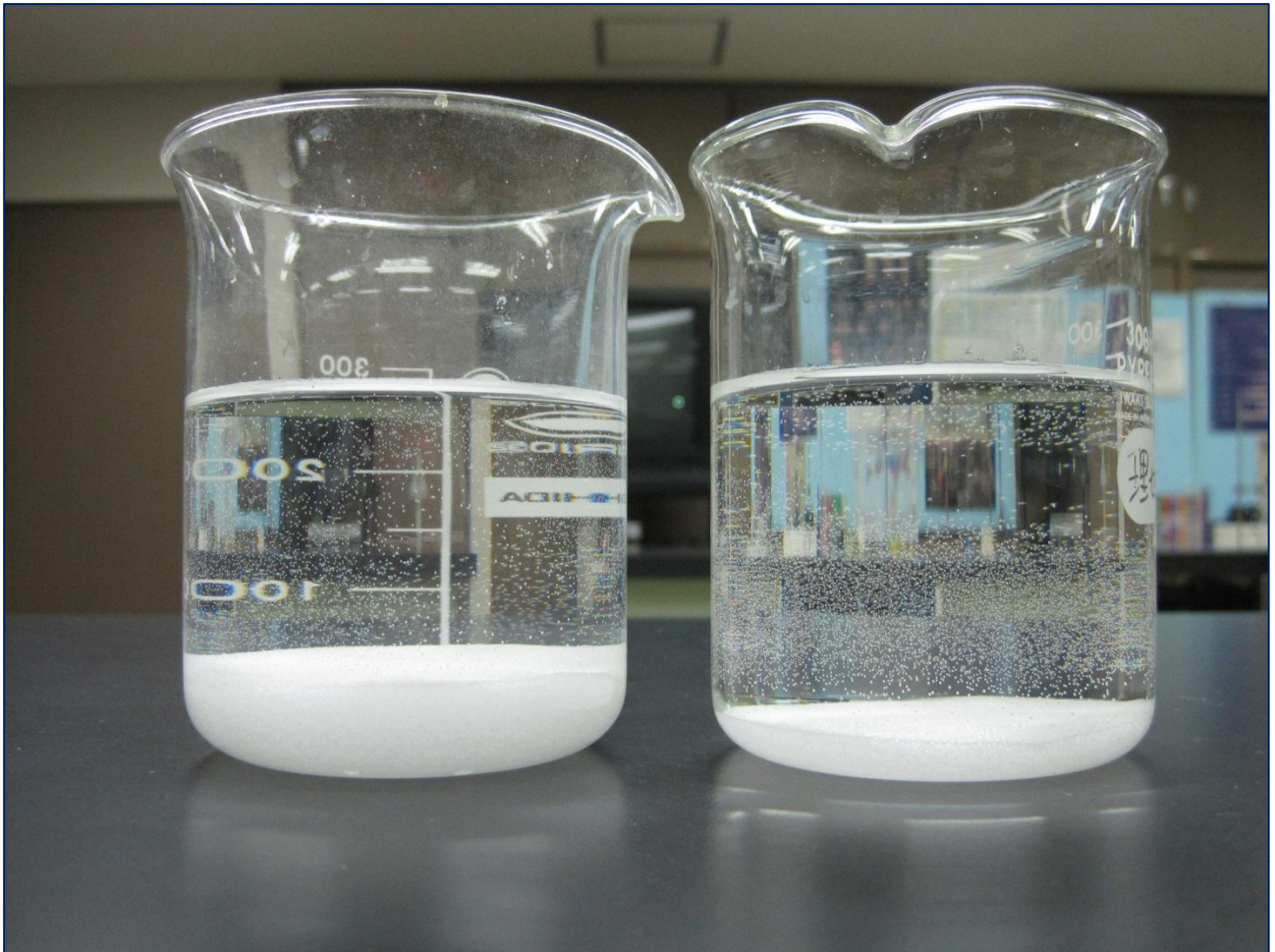


# 食塩の飽和水溶液



この2つのビーカーは、前の晩に水に食塩を溶かした水溶液です。

どちらのビーカーの食塩水の濃度が高いでしょうか？

「左のビーカーには食塩がたくさんあるから、左のビーカーの方が、濃度が高いと思う。」

「いや、反対に、左のビーカーは溶けていない食塩が多いのだから、右のビーカーの方が、濃度が高いと思う。」

**さあ、どちらのビーカーの食塩の濃度が高いでしょうか？**

どちらも溶け残りが出ているということから、左も右も飽和水溶液になっているので、どちらも同じ濃度になります。

子どもの今もっているものの見方や考え方が見て取ることができそうです。また、そこにさまざまな可能性が見えてきそうです。

どうすれば、濃度について比べることができるでしょうか？

子どもにその方法を問えば、

- ・ 味
- ・ 一定量を蒸発させた食塩の量 など

が、出されることが予想されます。

だとすれば、この事象を提示するのは、蒸発させることで溶けている物質を取り出すことができるという見方を獲得していなければ、手の出しようがないことになってしまいます。

食塩の溶け方を一通り学習した後に、この事象に出会わせてみてはどうでしょうか。そして、この事象とちょっと時間を使って向き合っていくことで、子どもは、水溶液に対するものの見方や考え方が広がったり深まったりすることになるのではないかと思います。